HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

New radiographic index for evaluating acetabular version

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2014-04-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小山, 博史 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2695

博士（医学）　　小山 博史

論文題目

New radiographic index for evaluating acetabular version

（臼蓋前・後捻を評価する新しいX線学的指標）

論文審査の結果の要旨

股関節の寛骨臼蓋は通常前方に開いた形態をとり、これを前捻という。前捻の増大や逆に後ろに開いた後捻は変形性股関節症の病態に関与している。単純 X 線写真上で後捻を診断するためにいくつかのサインが用いられているが、定性的である。前捻、後捻を定量的に評価する方法も提案されているが、臼蓋の一部分の評価でしかなかったり、計測が複雑で使いづらかったりする。前捻角を正確に測定できる X 線 CT は患者の被曝線量が多く、費用もかかる上に、病態把握に必要な立位での撮影ができない。申請者は前捻、後捻を単純 X 線写真上で簡便に、かつ定量的に評価できる測定法を考案した。

単純 X 線写真正面像において、涙痕と臼蓋外側縁を結ぶ直線に垂直 2 等分線を立て臼蓋関節面と交わる点から、臼蓋前壁までの距離を a、臼蓋後壁までの距離を p とし、p を a で除した p/a を前捻、後捻の指標とした。健常と考えられる 185 股関節における p/a の平均値±標準偏差は 2.05±0.56 であった。p/a が 2.05 以上の股関節では後捻を示すサインの出現頻度は有意に少なかった。62 股関節において X 線 CT で臼蓋前捻角を計測したところ、p/a と強い相関関係が認められた。これらの結果は、いずれも p/a が前捻、後捻を正確に評価する指標であることを示すものである。

申請者が考案した指標 p/a は単純 X 線写真で簡便に臼蓋の前捻、後捻を定量的に評価でき、p/a が 2.05 以上では後捻がないことを表す有用な指標と考えられた。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　阪原 晴海

副査　尾島 俊之　　副査　山本 清二